

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 733 号	氏名	今村 剛
学位審査委員	主査	中島 正洋	
	副査	上谷 雅孝	
	副査	青柳 潔	
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、腰痛や下肢痛などの臨床症状と関連性の示唆される仙腸関節癒合（SIB）と軸性骨格である脊椎の椎体周囲および椎体関節の変性変化を明らかにしようとするもので、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p>291 体の現代日本人男性骨格標本を対象に、肉眼的観察と CT 解析により SIB 群と非 SIB 群に分類、全脊椎の椎体周囲骨棘形成度と椎間関節変性度をスコア化し群間比較したもので、研究手法も妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で解析した結果、日本人の SIB 頻度がアジア人で初めて明らかになった。SIB 群で椎体周囲骨棘形成が促進され椎間関節変性度は抑制されることが判明し、椎間関節変性の加齢性進行の抑制は骨棘形成による可動性制限によるものと考察された。SIB 群の中には骨形成傾向を持つ個体が存在し、遺伝的素因を含めた全身性因子の関与を示唆する結果として評価される。</p>			
<p>以上のように本論文は、肉眼解剖骨学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			